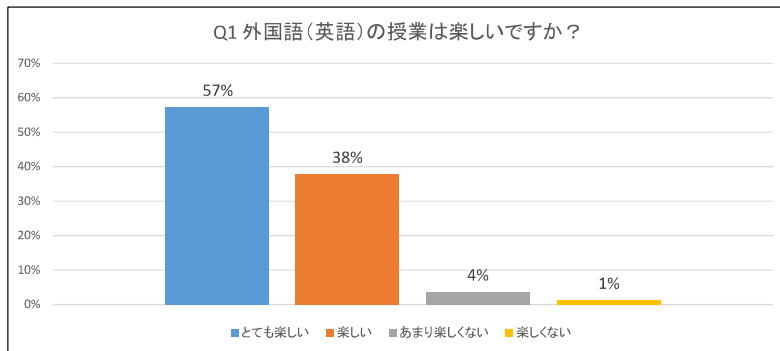


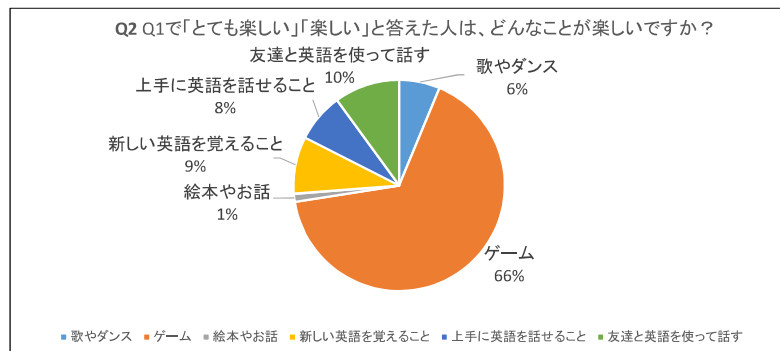
令和7年度外国語（英語）の授業に関する児童用アンケート調査結果の分析・考察（青海小）



【Q1について】

「とても楽しい＋楽しい」と回答した児童の割合は92%で、宇城市全体の91%とほぼ同じですが、「とても楽しい」の割合は市全体の割合を11%上回っています。「あまり楽しくない＋楽しくない」の割合も市全体より4%下回り、本校児童はしっかり授業を楽しんでいると言えます。

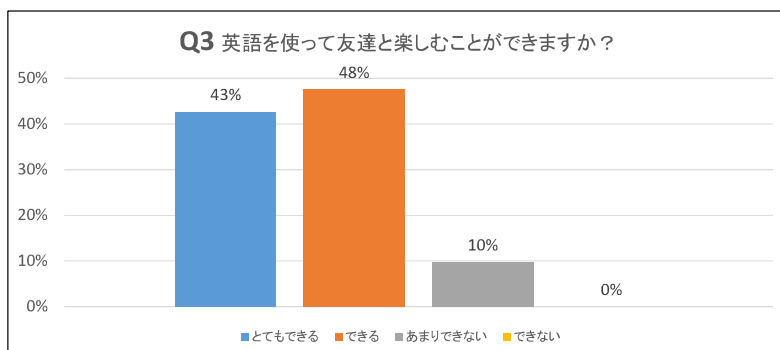
ただし、昨年度の結果と比べると、「とても楽しい」の割合が10%低下し、60%を下回ったのは初めてのことで、本校には少数ですが「あまり楽しくない＋楽しくない」と回答した児童もいます。外国語（英語）が苦手な児童には日頃から目配りをして、できたことをほめ、学級全体で安心して学習できるような環境を作っていきたいと考えています。



【Q2について】

「ゲーム」の割合は、市全体の64%とほぼ変わりません。ゲームが楽しい授業につながるきっかけとなっているのは毎年変わりません。ただし、本校の「ゲーム」の割合が昨年度比で13%増加したということは、他の項目、つまりより知的な活動に対する楽しさが低下したと言えます。例えば「友達と英語を使って話す」が昨年度比で11%、「新しい英語を覚えること」が5%低下しています。「上手に英語を話せること」はわずかですが2%増加しました。

児童が授業で英語のやりとりをしたり、新しい英語を覚えたりと、知的な活動を楽しむためには、今後職員の研修も必要だと考えられます。

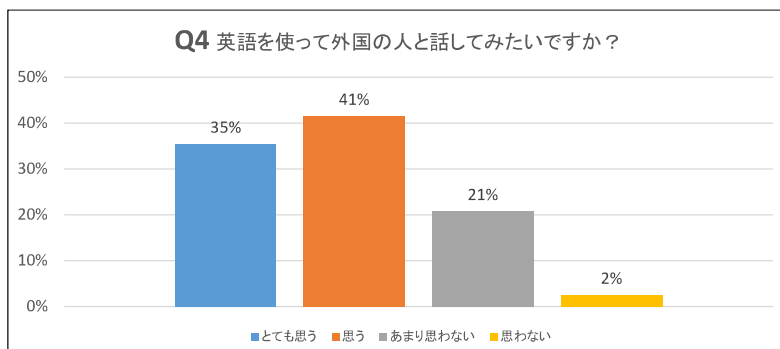


【Q3について】

「とてもできる＋できる」と回答した児童の割合は市全体と比べて10%上回り、「とてもできる」の割合も12%上回っています。また、昨年度本校で同様に回答した児童の割合よりも5%増加しています。

ただし、Q2で「友達と英語を使って話す」ことを「楽しい」と感じた児童の割合が昨年度比で11%低下したように、「とてもできる」の割合も14%低下しています。

特筆すべきは昨年度6%の児童が「できない」と回答しましたが、本年度解消したことです。今後も担任とALTが今後も友達とのやりとりを安心してできる工夫、その楽しさを味わえる工夫を追求していきたいと思います。



【Q4について】

「とても思う＋思う」と回答した児童の割合は、市全体と比べて9%上回っており、本校の児童は、およそ8割の児童が「英語を使って外国の人と話してみたい」と思っています。

ただし、本校の「とても思う＋思う」の割合は、令和5年度の87%がピークで、本年度は11%低下しました。回答の傾向がQ3と似通っており、対象が「友達」から「外国の人」に変わったことで、より「心のハードル」が上がったような結果となっています。この3月で2年となる本校児童とALTの関係は大変良好であるだけに、そこに刺激を与えるような「ゲストティーチャー」の導入も考えたいと思います。

【保護者・学校関係者からの意見・要望等】

令和7年度末の学校評価アンケート（最大値4、最小値1の4件法による調査）では、「外国語学習の充実」において、保護者様からは平均値で3.6（昨年度比＋0.1）、学校運営協議会委員様からは3.5という概ね高い評価をいただきました。職員の平均値は3.6（昨年度比＋0.5）で、三者が同傾向の評価となりました。

また、ALT派遣業者からは、昨年同様、「ALTに授業に必要なことはしっかり要望し、どんどん活用してほしい。」という助言を受けました。

【考察・今後の展望等】

○担任が本時のめあてに向けて、どのような授業を展開したいのか、そこにALTをどう活用するのかを考えることが重要です。指導者同士のコミュニケーションは図られているので、今後は授業を公開し、授業研究を行うことが改善の道筋だと思われます。

○「表現する力」は本校が育成を目指す資質・能力の最重点です。週1～2時間の外国語の授業を支えるために、国語科をはじめとする他教科の授業や行事において、自分の考えを「日本語」でしっかり話せる力をつけることを大切にしていきたいです。